



大企業区分

ダイハツ工業株式会社滋賀(竜王)工場

※事業者の情報は応募時点(2018年)

所在地	滋賀県蒲生郡竜王町大字山之上 2910 番地
業種	製造業
社員数	4,826 名
受賞歴	2016 奨励賞、2017 奨励賞
ウェブサイト	http://www.daihatsu.co.jp/

事業活動に伴う環境負荷低減に向けて自ら進んで行動する人づくり

取組の目的

弊社では、環境保全活動の方向性を定める為、1993 年より自主行動計画である「環境取組みプラン」を策定し、5 年毎に評価および見直しを行って参りました。また、2018 年 9 月に『ダイハツグループ環境アクションプラン 2030』を定め、中長期環境取組みの方向性目標・活動の枠組みを明確化しています。取組み分野は「低炭素社会」「循環型社会」「自然共生社会」「環境マネジメント」の 4 項目で構成しており、これまでの環境取組みに加え、お客様に最も近い会社として地域の環境を守り、地域へ貢献することを通じて、社会との連携を、より一層強化していく事を掲げ、前述の 4 項目を具現化する為の基礎である「自ら行動する人づくり」に取り組んでいます。



取組の実績

1) 環境月間行事

- 社長メッセージ、全社員 e-ラーニング、社内報への掲載、環境標語募集、ライドダウン、エコドライブ体験
- メッセージや e-ラーニングは日本語版と英語版を作成、全国の事業所で働く全ての社員へ教育を実施

2) 外部有識者による環境講習会

- 社外より専門家をお招きして、各テーマ(地球温暖化・生物多様性・環境関連法令・ISO マネジメント教育など)等を、毎年 5~6 回開催

3) 環境道場

①目的

環境法規制の変化点や SDGS 制定の背景を、写真、アニメーション、動画を用い出来る限り判りやすく噛み砕いて説明することで「順法、漏洩事故防止、低炭素、資源循環、生物多様性」に、強い人材を育成する

②体制

専属講師(当社員)6名(毎日6回開講)。1講義当たりの受講者数8名を上限とした少人数制

③対象

滋賀工場全従業員+生産技術 職制 約 5000名(毎日6回開講)

④取組内容とカリキュラム

'18年度 基礎教育内容	年度	メインテーマ
1. 世界の環境動向	'13年	環境保全・公害防止とは？
2. '17年度に発生した環境事故 事例と異常発生時の処置	'14年	環境行政への届出とは？
	'15年	改正フロン法への対応
3. 環境法令のおさらい	'16年	廃棄物法違反リスク
4. 最近の法改正	'17年	環境事故事例から学ぶ点
5. 廃棄物を排出する際の注意点	目標	全員受講と理解度テスト合格を目標に毎年度実施
●企業を取り巻く環境 <ul style="list-style-type: none"> • SDGs 達成に向けた取組み、PRI・ESG 投資とは？ • 雑品スクラップ規制を受けた小型家電の分別方法 • 水銀製品廃棄物の分別方法 • 土壌汚染対策法の改正内容 		

全従業員へ1から3の教育を体系的に実施する事により、環境への直接的な負荷となるCO₂、VOC、廃棄物の低減活動に全員が参画し、毎年100件以上の削減アイテムを実行しています。

4) 地域の小中学校への出前授業

①目的

将来を担う子供達へ、車作りの中で行なう環境負荷低減の取組みを楽しく教える事で、持続可能な社会の構築を継続できる人(地域)づくりを目指し、近隣の小中学校 11 校で実施。

②取組内容とカリキュラム(小学生用/中学生用)

座学	眼で見る体験	アンケート
1. 地球温暖化による環境への影響	1. 水の浄化実験 汚れた水を綺麗な水に変える	担任教諭からは「子供の目が輝いていた」、生徒さんから「将来ダイハツで働きたい」と嬉しいご意見を多数頂いた。
2. 燃費の良い車づくり	2. 車のリサイクル 使用済みバンパーからリサイクル品への流れを実物で見る	
3. 環境にやさしい工場		
4. 生物多様性 リサイクルしやすい車		

5) 生物調査会(ビオトープ・里山)

①実践目的と実施

本社環境室と外部専門有識者による、滋賀工場内の生物調査を'15年から開始し、約 860 種(希少種 約 60 種の生息を確認。滋賀県内でも有数の工場である事が分かり、これまでの自然との共生に向けた取組成果を認識。

更に、その取組み成果を体感し、生物多様性保全を企業人・社会人として意識を醸成(前進)させる為、また楽しみながら生物多様性を体感で学ぶ事が、企業人・社会人としての自主性に繋がる事を狙いに家族同伴で学ぶ工夫をしています。ボランティア活動として、2 回/年の家族同伴の調査会をビオトープで実施。今年からは更に範囲を広げ、滋賀で 2 例目の発見となった「エンシュウムヨウラン」や希少種「カスミサンショウウオ」を保全すべく、工場内の里山調査を実施。



②取組内容とカリキュラム

ビオトープ・里山での実践	教室での実践
<ul style="list-style-type: none"> ・参加者による水中生物、昆虫等の採取 ・実物を前に、専門家による希少性の解説 ・外来生物の駆除体験による意識の醸成 	<ul style="list-style-type: none"> ・滋賀工場全体の生物について(生き物マップ作成) ・子供達による写生(昆虫への興味を醸成) ・子供達の質問へ専門家が解答

③結果

従業員の子供達も多く参加され、従業員からは「楽しみながらたくさんの昆虫に触れ合う事が出来た」「滋賀工場にこんなにたくさんの希少種(昆虫や植物)がいると知って誇りに思う」との感想を頂いた。

継続して調査を行なう事で、社員及び将来を担う子供達が自然環境の変化を確認し多様性保全を考え行動できる人づくりへ繋げています。

6) 外来植物パスター活動

①実践目的と実施

人間が移動させた植物、人工造成地により元々いた植物を無くした事の植物生態系への影響を理解し、守るべき固有種と駆除する外来種を伝えた後に実施。

②取組内容と結果

昼休みのボランティア活動として実施したにも関わらず、環境道場での理解促進の効果もあり、200名近いボランティア参加者が集まった。その際、広大な土地を無為に駆除するのではなく、取組みモデルエリア設定し、当該範囲内は1本残らず抜く方法を採用することで、今後、活動による成果や変化点を見極めていく。半年後の2回目活動時に自分が抜いた場所に外来種が群生していることを確認してもらい、人の行動結果による植物生態系への影響を実体験頂き、自らの思考や行動の変化に繋げています。



7) 生物多様性 びわ湖ネットワーク活動

①活動目的

滋賀県の生物多様性を保全する目的で県内 7 社が連携し楽しく継続的なトンボ保全活動に取り組んでいます。

②活動内容

滋賀県は全国有数のトンボ王国であり、トンボは自然環境をはかる「ものさし」として最適。県内企業 7 社が連携し、「調べる」「守る」「知らせる」の 3 本柱でトンボ保全活動を展開しています。

- ・ 滋賀県のトンボ 100 種を専門家と共に各事業所内及び県内でトンボ調査を実施
- ・ 保全シンボルとなる「一押しトンボ」を各社で選定し、調査と環境整備を実施
- ・ 活動記録は、UNDB-J、IPSI、琵琶湖博物館、マスコミ報道などを通じてより多くの人に伝え、自然共生社会生物多様性保全を考え、行動する人の仲間づくりを社内外で実施しています。

成果・課題

今回の活動で滋賀工場の従業員には社内における教育で得た知識や情報と実践を通じて、社内外を問わず「環境負荷低減に自ら進んで取り組める人づくり」を目指しています。

1) 環境への直接的な負荷低減

車両生産が 17 年間で 3 割増加する中、環境への直接的負荷となる CO₂、VOC、廃棄物を従業員一人ひとりが考え行動し、年間数百件の改善を繰り返し 4 割から 7 割低減しています。

2) トンボ総選挙

①目的(環境をプラスに変える活動)

滋賀工場のどこにどんなトンボが生息しているか周知し、お気に入りのトンボを楽しみながら選び、「押しトンボ」を決めるべく、工場内全従業員参加型のトンボ総選挙を実施。

②取組内容と結果

全社員に投票して頂くため、メールや社内ホームページ掲載だけでなく、業務でパソコンを使わない方にも各職場で概要を展開し、3794 票(投票率 79%)もの投票を頂き 706 票を獲得した「ネアカヨシヤンマ」が「押しトンボ」に決定した。

トンボ総選挙では滋賀工場全従業員に投票を呼びかけ約 80%の投票率の中、「ネアカヨシヤンマ」に決定した。

ここで感じた変化は、全従業員投票で「希少種のトンボ」が選ばれた事、「80%もの人」が投票してくれたこと。

この結果を受け、実践による体感を通じて滋賀工場には「希少種を守る意思」と「積極的に環境活動に参加する文化」が醸成された事を成果として確認できた。

3) 滋賀工場の評価

- 2017年3月 滋賀県低炭素社会づくり賞(事業者行動計画書部門)
- 2017年5月 環境 人づくり企業大賞 2016(奨励賞)
- 2018年2月 滋賀県環境保全協会会長表彰
- 2018年3月 滋賀県環境保全優良事業所表彰
- 2018年5月 環境 人づくり企業大賞 2017(奨励賞)

4) ダイハツ工業全体の変化

①ダイハツ環境アクションプラン 2030 の正式発表となった「環境講演会」で奥平社長が

- ・ 「安全」「品質」と並び「環境」を経営の軸にシフトする。
- ・ 事業活動による環境インパクトをマイナス(負荷) からプラス(貢献)へ換えるため様々な活動に取り組む。
- ・ 一人ひとりの「環境を自分ごとと捉えた」意識と行動をする事。
- ・ 会社スローガン「Light You Up」マインドを自然共生活動で育成する事。

を発表され、環境への更なる注力、社内外で環境ボランティア活動の意義が非常に高まった。

②アクションプランの周知

- ・ 環境アクションプラン 2030 が「トヨタ環境チャレンジ 2050」に繋がっている事を認識。
- ・ Myアクションプランの工場内従業員 100%宣言による行動への意識付け。

今回の活動全体を通じて「環境アクションプラン 2030 を実現するための人づくり」に対する評価

- ・ 組織の中で事業活動を通じて環境負荷を低減する、すなわち「低炭素社会の実現」や「循環型社会の実現」を達成する行動はもちろん、環境貢献、すなわち「自然共生社会の実現」を達成するため組織内外を問わず「自ら進んで行動する文化」を構築出来始めたと評価した。

今後の改善

- ・ 環境負荷低減を本来業務のあらゆる場面で考慮し、更に加速、深化できる人づくり教育を拡げます
- ・ 社外における環境貢献を向上させる為、他企業やグループ各社との連携を強め、様々な貢献活動を企画します。

関連・補足情報

1. ダイハツ環境アクションプラン 2030

<https://www.daihatsu.com/jp/csr/environment/action/index.html>

2. ダイハツの自然共生活動

https://www.daihatsu.com/jp/csr/environment/production/18_003.html

審査委員会からの講評

2018年9月に策定された「ダイハツグループ 環境アクションプラン 2030」で定める「低炭素社会」「循環型社会」「自然共生社会」「環境マネジメント」の4項目を具現化するため、人材育成が戦略的に位置づけられている。全社員が教育を受ける機会があり、社内だけでなく社外の他の主体との協働・連携も積極的に行われている。また、2015年から行われている工場内の生物調査は、社員の生物多様性保全に対する意識づけになっており、評価できる。

このような多様な教育と機会の提供が社員一人ひとりの行動を促し、本業における環境負荷低減にも繋がっており、他の企業にも参考になる模範的な取組であることを高く評価したい。